

# そよかぜだより

第95号  
発行 2010. 4. 18  
毎月1回発行  
社会福祉法人  
そよかぜ

### 連絡先

ひばり園 578-0855  
FAX 578-0466  
くれよん 578-2575  
つくしの家 578-0855  
あおぞら 570-6110  
エール 570-1233

資源回収時のご連絡は  
「ひばり園」へ

## 4月2日は世界自閉症啓発デー

### 国連で式典、国内ではシンポ

毎年4月2日は国連が定めた「世界自閉症啓発デー」です。同日、国連では潘基文(バングラデシュ)・事務総長がスピーチしました。「自閉症はさまざまな症状が現れる複雑な障害で、理解は十分に進んではいない。日々の苦難に加えて社会の冷ややかな態度や支援の不足、あからさまな差別とも闘わなければならない」

と現状を訴えました。

さらに「自閉症に対する理解を深めるよう求め、障害者差別を生み出す偏見をなくすよう、自分たちと社会の態度を考え直そう」と訴えました。啓発デーは、2007年、子どもの権利条約、障害者権利条約を想起するとともに自閉症の認識を高めようと国連総会で決議され、08年から

毎年、記念行事が各地で行われるようになってきました。

国内では、日本自閉症協会と厚生労働省の主催で記念のシンポジウムが開かれました。協会の石井哲夫会長は「自閉症の人は、刺激をうまく整理できなかったり、言葉を理解できなかったり、周囲とかかわりを持ちにくい特性がある。これが一般の人には分かりにくく、孤立を強いられている。でも支援を受ければ自立できる。ライフステージに応じた生活の困難を知ってもらい、効果的な施策を実施してもらいたい」と訴えました。

くれよん家賃  
大幅値下がり  
伊吹興産様のご厚意で  
4月からくれよんの家賃が大幅に下がりました。不況の影響でくれよんの売上は低調でしたので、先行きが不安でしたが、これで救われました。

## ゴールデンウィーク

### そよかぜ各事業の休業予定

そよかぜ事務局 カレンダー通り  
ひばり園作業所

4月29日～5月5日

羽村市障害者就労支援センターエール

4月29日～5月1日

5月3日～5月5日

スマイル工房

カレンダー通り

つくしの家

4月29日～5月5日

くれよん

5月1日～5月5日

関係各位にはご迷惑をおかけしますが  
よろしく申し上げます

福島瑞穂・内閣特命担当大臣は「障害者制度改革推進本部で障害者権利条約の締結に必要な国内法整備や制度の集中的な改革を議論している。今日を契機に、政府としても総合的な施策の展開を図りたい」とメッセージを発表しました。

## ご協力ありがとうございました。

3月の募金 31,350円

(順不同) 平成21年4月～22年3月の合計 397,280円

帯刀 幸子 様	藤野 和子 様	北野 浩美 様
エイ・アイ 様	大野 元雄 様	田中 明子 様
清水 賢 様	森田 勝 様	阿部 郁子 様
清水 知子 様	天満 喜代子 様	平岡 知子 様
山下 暉枝 様	込宮 正夫 様	関村 理 様
渡辺 時三 様	鈴木 清美 様	関村 英希 様
濱野 岬 様	山田 隆章 様	橋本 亜紀子 様
古沢 奈保美 様	増田 一仁 様	山影 幸子 様
袴田 実 様	宇津木 忠雄 様	小沢 達子 様
竹内 照夫 様	山崎 六雄 様	大野 素子 様
榎本 正代 様	清水 キヨ子 様	長谷川 キヌ子 様
松岡 竹子 様	尾又 恭子 様	角野 克子 様
角野 満壽子 様	国本 昭治 様	白井 信行 様
斉藤 忠 様	大内 たま子 様	田中 稔 様
吉野 満里子 様	田村 由親子 様	平野 嘉子 様
永岡 智恵子 様	田村 千佳 様	桜沢 喜作 様
川崎 利男 様	関谷 博 様	山口 敏彦 様
アールサンカワノ 様	下田 コウ 様	アバンバンディックス 様
櫛八洋 様	匿名様(3,120円)	

ご連絡は、ひばり園へ  
羽村市栄町3-3-1  
042-578-0855

くれよん3月の売上げ  
817,130円でした。

羽村市内の小学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さっています。ありがとうございます。

## 社会福祉法人 そよかぜの

# 《資源回収》に

ご協力をお願いします  
新聞、雑誌、ダンボール

(ボロは扱っていません)

3月は24,250tでした。金額は379,907円となりました。  
この収益は、社会福祉法人そよかぜの運営資金になります。  
みなさまのご協力ありがとうございました。

5月は第3日曜日16日です。

大雨の場合は、次週の日曜日に順延します。

# 障害ある人に対する言葉使いの難しさ

## 一人ひとり使い分けが必要

### 信頼関係は認めることから

今回は「言葉」について考えてみます。

一人の中年の男性ですが、勤務中にいきなり事務所にきてドアを開け、職員と顔を合

わせると「帰る」といいます。「どうしたの、具合がわるいの、どこか痛い」と聞くと

「ハラ」とか「アシ」とか一言だけはつきりいいいます。それ以外のことは何もいいません。よくあることですから職員もさほど心配することもな

く「じゃー、気をつけて帰ってね」といえば、「アシ」といった人が歩いて帰ります。その人は、行った、来た、帰

る、などの単語だけで会話をして、何がどうしてどうなっ

たという文章になるような言葉聞いたことがあります。知らない人は、ぶつきらばうに聞こえるかもしれませんが、性格は素直で愛すべき人柄です。作業は正確で早く、人のいうことはすべて理解できる

のでかなり高い能力をもっているのですが、口から出る言葉は単語だけです。

その一方には、喋り始める

と話がいつまでも長く続く人がいます。統合失調症のため

話の内容が支離滅裂で、何が

いいたいのか意味が分かりません。それでもこちらは分か

ったような顔をして「あーそうですか」と相づちを打ちま

す。下手に問い正したり質問などをすると余計に長くなるし、ときには感情的になって怒り出すこともあるので、終わるまで付き合うことになり

ます。その人は昼休みの休憩時間にはいつも決まった人に話しかけています。だまって聞いている相手が、何も分かってないことを承知で話します。その人にとっては、相手に伝えることより自分が話をすることが必要なのです。だから気が済むまで続きます。

以上は極端な二人の例を紹介

介したのですが、この他にもいろんな人がいてみんなそれぞれ話し方や使う言葉が違います。こちらも相手の顔をみて言葉を使い分けていることに気が付きます。知的障害の人と話をするとき、相手の理解力に合わせた言葉を使います。その人に分かるようになるべくやさしい言葉を使いますが、もし間違えて難しい言葉を使ってしまったら、それを相手に分かるように説明するためにあとでひと苦労することになります。

これと同じことは、一般人でも日常生活で無意識のうちに行っていることだと思えますが、相手に知的や精神の障害がある場合は、言葉の使い分けが一段と難しくなります。理解力は同じ程度でも、性格や養育環境の違いによって同じ言葉でも使い分けが必要になります。乱暴な言葉をかけても平気で、かえって親しみが

出る人もいれば、同じ言葉で精神的に大きなショックを受ける人もいるからです。言葉使いはなかなか難しいものだと思います。

人間は言葉でものを考える

動物です。使う言葉によってその人の人生が見えます。子どもの教育と貧困について研究している青砥恭（あおと・やすし）先生が、最近、雑誌（インパクション）に発表した論文によると、底辺校に通う生徒には語彙が少ないという共通点があるそうです。さらに低学力の生徒は「むかつく」「きもい」「ださい」「消えろ」「死ぬ」などを連発して、そんな言葉でものを考える習慣ができています。人との信頼関係が築けない生徒が多いそうです。それは将来の非行や、さらには「誰でもよかった」タイプの犯罪の原因になります。どのような言葉に

囲まれて育つか、その後、どのような人生を歩むかについて決定的な影響を与えると先生はいつています。

千葉県に、強い問題行動を持つている自閉症の専門施設があります。十年ほど前に施設長の発案で、利用者に対して否定的な言葉はいっさい使わないようにする対応法を職員に義務付けたそうです。どんな場合も「ダメ」とか「やめろ」などの言葉を使わず、

問題行動があっても「君の気持ちはわかるけど、こうやったらどうだろう」「この方がうまいくと思うけど」などの肯定的な言葉を使って対応するようにしました。はじめ、これは職員にとって、なかなかしんどいことでしたが、一年もしないうちに効果が現れてきました。大きな問題行動がみごとに少なくなったそうです。

信州のある僧侶がテレビで話していたことですが、人を思う心に、三つあるそうです。「励ます」「なぐさめる」「認める」です。励ますは未来について、なぐさめるは過去について、認めるは今のこと。いま一番大切なことは認めることです。人は他の人から認められることで生きられる、

といいます。肯定的な言葉によって、認められたことを自覚するわけですから、言葉の力の大きいです。

そういえば、聖書・ヨハネ伝の有名な冒頭の文句に「はじめに言（ことば）あり、万物は言によって成った」といいますから、この伝によれば、人間にとって言葉ほど大切な

ものはないことになりました。まあこれほど大きく構えなくても、障害のある人と日々接して、言葉というものは、その人の頭の中、心の中を知るために実に貴重なものであることがよくわかります。

そこで問題は、重度の知的障害のために言葉がないか、あっても理解力が弱い人の場合です。言葉がなくても心はあります。その心に、こちらの気持ちをどうやって伝えるか、つまり言葉に代わる意志

伝達の手段はといえば、態度、顔の表情、そしてうしろ姿です。言葉のない人は、その分だけ実に人の動きを見ているなど痛感することがしばしばあります。必死で人の気持ちを知ろうとしているのです。どんな人でも自分が「認められてる」と思えば、その相手に反抗する気持ちはなくなります。

信頼関係とはお互いに認め合うことです。言葉は心が発するものですが、言葉があってもなくても信頼関係は築けます。ただ築く方法が障害者は一人ひとり違うので、難しく悩ましいところです。